
君と蝶

潤

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

君と蝶

【コード】

N3980A

【作者名】

潤

【あらすじ】

自分の目の前から消えそうな男の子に必死で想いを告げようとする女の子。だが、男の子は人間ではなかった・・・

「ねえ、ドコに行くの？ねえってば!!」

テクテクテク・・・

「ねえ〜ドコに・・・」

君は私の言葉を最後まで聞かずにこう言ったんだ。

「僕はあそこに行くんだよ」

と、暗闇に浮かぶ真っ白な月を指していた。

「君は来ちゃダメだよ？」

「・・・ バカじゃないの？月になんて行けるわけ・・・!!」

月から視線を戻し、君を見たはずの私が見たものは・・・
とても綺麗な蝶だった。

私の前にいたはずの君は居なく、かわりに居たのは
真っ白な月を目指して飛ぶ、きれいな蝶だった・・・

「本当に行っちゃったの??もう・・・会えないの?」

私は転びそうになりながら、必死に君を追いかけた。
行ってほしくなくて・・・まだ言いたい事が沢山あって・・・

「待って!!お願い・・・行かないでっ!!」

月に向かって空を舞う君に向かって叫んだ。見知らぬ人から見れば、私は頭のおかしい人に見えただろう。でも、そんな事はどうでも良かった。ただ君さえ居てくれればそれでよかった。。。

「お願いっ!!まだ、行かないで。止まってよ!!」

止まるはずもないのに呼びかける私。。。だが、君は止まらなかった。私の目の前で。

「……………はあ…はあ…。やっと…とまった…」

「お願い。聞いて…少しだけでいいの。」

『……………』

君は私の願いを聞き入れたように、じっとしていた。その綺麗な羽を休めながら…。

「あのね、言いたい事があったの。。。今さら言つのも遅いんだけどさ、やっぱり言っておきたい。」

『……………』

「……………ずっと君が好きだった。名前も知らない人だけど、私にとっては君がすべてだった。いつも一緒に遊んでくれてありがとう。」

私が言い終わると同時に君は、再び空に舞い。私の目の前でしばらくヒラヒラとしていた。

「もう…行くの?」

『……………』

「そっか……………これでお別れだね。」

そう言うと君は、私の鼻にちゃんと止まり、羽をヒラヒラさせて行ってしまった。

「……………ありがとう。」

私は、君が見えなくなるまでずっと……………ずっと涙を堪えた。だって、泣いたら君が見えなくなるでしょう???

E N D

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3980a/>

君と蝶

2010年12月14日21時43分発行